

令和4年度 第1回飯山市美術館運営協議会 会議録

- 開催日 令和4年5月26日(木) 午後3時30分～5時00分
○開催場所 飯山市公民館206会議室
○参集者 委員：廣靖彦(会長) 吉越隆師 千坂経悦 高山顕光 伊達信寿 小林豊彦
※3名欠席

市側：松木英文(教育長) 田中良則(文化振興部長) 井端伸介(美術館係長兼美術館係長) 木村友子(美術館職員)

1 開 会

- 2 辞令交付 今年度委員の変更があったので辞令を交付いたします。
飯山市校長会から選出して頂きました西澤委員から高山委員となりました。

3 あいさつ

会 長： コロナ禍もなかなか収束しませんし、私は週一回栄村の学校に行かせていただいているのですが、大阪の人間なので、大阪に行き帰ってくると、二週間は学校へ来ないでくださいと言われるんですね。また、ロシアとウクライナの事などありまして、気が重くなるニュースばかりですが、美術館など文化的な事で気持ちが明るくなればと思います。お世話になるとは思いますが、ご協力をお願いします。

教育長： 昨年度、美術館では企画展等開催しまして、市民のなかにも美術作品をとおして芸術に触れることが出来たと思います。ただ、コロナ禍ということもありまして、ここ2、3年は来館者数がかなり減っております。5月の連休過ぎまして、感染者数が落ち着いたことでもありますので美術館も多くの方に来て頂きたいと思います。
魅力ある美術館にするにはどうしていったらいいか、ということなんですけど、事業内容、展示内容、また、広報活動といったことも大事になってくると思いますので、建設的なご意見を頂いて、多くの方の学びの施設になるようご意見を宜しくをお願いします。

4 自己紹介

5 協議事項 ※委員からの主な質問、意見及び事務局の回答等

(1) 令和3年度事業について(報告)

事務局： (次第と資料のとおり説明)

委 員： ワークショップを年2回行っているが、それは子ども達の休みに合わせて行っているが、その時だけでなく、その後も継続してものづくりに携わっていくことが大事だが、その辺はどうでしょうか。

事務局： 参加した子ども達その後どのように取り組んでいるかといったデータ的な紹介が出来ないので難しいと思います。

委員：参加した子どものなかで、継続して伝統的な何かを継承していければいいが、毎回参加してもらうような呼びかけはしているのか。

事務局： 現状、参加経験した子ども達に向けては特別な呼びかけはしていません。

公民館事業の場合は市内の学校に一斉に連絡募集をかけていますが、前回参加したからまた参加するといった児童はいます。

委員： 是非、継続して行ってもらいたいですね。

会長： 大阪ですずっと高校の美術教師をしていました。今は週一回ですけど、中学生を相手に授業を担当していますが、なかなか、美術の授業が取れないんですね。今、委員さんが仰るように継続して創作活動するという事が難しいのが現状なんです。

大阪の話ですが、毎年、高校生の美術部の展示を市の美術館を使って展示するんですね、学校の数が300校くらいあるので、絶対数が多いとそれなりに動くんですが、飯山市はほとんど子供の数減って学校の数も減ってきているので、いい事もあるけど、大変な事もあるので、継続してやって行くとなると、美術館に要望するのではなく、学校の先生の方から場所を貸してくれと、お願いして欲しいと思います。

でも、このことが、何かきっかけになっていくことは素晴らしいことだと思います。

以前、作品を観ながら答えるクイズがありましたが、とてもすてきなと思いました。

皆さんのなかでまた、アイデアを出して頂ければ。

(2) 令和4年度事業計画について ※委員からの主な質問、意見及び事務局の回答等

事務局： (次第と資料のとおり説明)

会長： 今年灯籠祭りが開催するということですが、森田さんの和紙作品の展示に合わせて市民の方、たとえば子ども達も一緒に和紙の作品を展示するとか。作家と同じ空間で発表できるという事はお互いに刺激があるのもいいと思うんですが。

今回だけでなく、同じ空間で素人と作家と一緒に展示できる機会があればいいと思うので考えてみて下さい。

事務局： 是非、前向きに検討致します。

(3) 令和4年度以降の企画展等について ※委員からの主な質問、意見及び事務局の回答等

事務局： (次第と資料のとおり説明)

※特に意見等なし

教育長： 飯山市では令和7年に統合小学校が開校します。4校が統合して新しい学校ができます。

学校というところは色々な素晴らしい物がありまして、美術作品も結構あります。

そういった物を思い出の学校作品として展示して、それ以外の歴史を語る道具などをふるさと館で展示するのはどうか。各学校には沢山の美術品があるので、見応えのある展示になると思います。地域の人に見てもらえる機会になるし、来館者を増やすいい機会になると思います。学校からも生徒に見学に来てもらい、ふるさと館と美術館を半日かけて学習するのもいいと考えています。

統合する前の学校が所蔵している作品も美術館やふるさと館で保管して行く事になると思うので、また、市民の方に披露する機会も設けたりできるといいと思います。

検討してみてください。

会長： 是非可能であれば調査してやって頂きたい。そして、小中学生、高校生が一回でもいいから美術館に足を運ぶ機会になってくれたらと思います。

(4) その他

委員：一般市民向けのワークショップは何か考えられないか。美術館へ足を運ぶ機会になるんじゃないか。

教育長：公民館などで色々な講座をやっているが、美術館として何か関わっていけないか考えてみるのもいいと思う。

事務局：市民のグループで活動している方々ともワークショップについて意見など聞ける機会を作ってみたいと思います。

委員：和紙工房など活用しながら、継続して行うような事ができるといい。内山紙を漉く人も少なくなっている。原点に戻って和紙造りを行うような事を考えて欲しい。

会長：美術館が市民にとって近い存在になるにはどうしたらいいか、どんな企画がいいか、委員さんも提言して欲しいと思います。

6 その他

事務局：特になし

7 閉 会